

組織目標評価報告書（令和5年度）

27

部局名： 地域総合研究センター

部局長名： 三村 聡

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
令和5年度は、昨年度の経験に基づき、行動規制が緩和されたとは申せ、コロナ災 禍対策に留意を続けながら、主担当となった教育推進機構の意向に沿いつつ、当セ ンター教員が担当する実践型社会連携教育プログラム、とりわけ教養科目における 授業を中心にSDGs活動との関係性を重要視した教育活動を展開したい。また、海 外からの学生のサポートについても、これまでの実績を活かし、SDGs推進を視座に おいた社会連携教育を当センターのレベルで推進する。 ②学生の地域活動を見守りながら、他大学や高校との連携を視野に入れつつ、情報 交換活動を含む地方創生に結びつくSDGs推進を実施する。 ③学生が地域社会で学ぶことにより、実践力の向上と生きる力を身に着けること を目指し新型コロナ災禍の影響を受けながらもオンラインを有効活用した新たなスタイル のインターンシップ型の教育プログラムの開発に取り組む。	令和5年度は、計画通り、当センター教員が担当する実践型社会連携教育プログラム、とり わけ教養科目における授業を中心にSDGs活動との関係性を重要視した教育活動を展開 した。特記事項としては、10月1日より、新たに床尾あかね特任准教授が着任したこと により、教育活動の幅が広がり、さらに学生指導の体制が強化された点を報告する。さらに、海 外からの学生のサポートについても、これまでの実績を活かし、L-Caféとの連携など、SDG s推進を視座においた社会連携教育が推進できた。 ②学生の地域活動を見守りながら、他大学や高校(岡山県立古城池高校、玉島高校、玉 島商業高校、私立作陽学園高校など)との連携を視野に入れつつ、情報交換活動を含む 地方創生に結びつくSDGs推進を実施した。 ③学生が地域社会で学ぶことにより、実践力の向上と生きる力を身に着けること を目指してオンラインを有効活用を含む新たなスタイルのインターンシップ型の教育プログラムを展 開するために、地域の皆さんに学生たちがスマホやアプリの活用方法についてアドバイス する等コミュニケーションを深めた。	
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①今年度は新執行部体制のスタート年であり、地域総合研究センターも、学内改革 に合わせながら新たな第一歩を迎える。また、これまでの学都研究の成果を振り返り ながら、引き続きベンチマークにしてきた米欧大学の先行活動の最新事情をフォロー していく。 ②これまで継続してきた三都市シンポジウムを通して、旧制四高、五高、六高連携 の総括を行い、本学が推進するSDGs大学経営の視座から、今年度は開催地が地元 岡山であるため、一層の研究成果を取りまとめた。 ③地域連携や産学共創をテーマに岡山大学文明動態学研究所との関係性を深め ることに研究の力点を置きつつ、引き続き地域創生研究を継続する。 ④まちづくりにおける若者の参画についての国内比較研究を発展させる	①今年度は新執行部体制がスタートを受けて、地域総合研究センターは、学内改革に合 わせながら発展的な解消の方向性が確定した。来期からは、これまでの学都研究の成果 を振り返りながら、引き続きベンチマークにしてきた米欧大学の先行活動の最新事情をフォ ローしていくと共に、その機能を研究系本部の傘下に置くことで調整した。 ②これまで継続してきた三都市シンポジウムを通して、旧制四高、五高、六高連携の総括 を行い、本学が推進するSDGs大学経営の視座から、今年度は開催地が地元岡山であり、 ホスト役として大きな成果を生み出した(来年度は金沢大学がホスト役の予定)。 ③地域連携や産学共創をテーマに岡山大学文明動態学研究所との関係性を深めること に研究の力点を置きつつ、引き続き地域創生研究を継続展開できた。 ④JR西など社会連携の実践を通じて、まちづくりにおける若者の参画について、留学生と 日本人学生との国内比較研究に取り組んだ。	
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①自治体、経済界との連携による地域課題の解決に向けた活動展開を予定してい る。一例では、SDGsで第7次倉敷市総合計画や、岡山商工会議所の提言書(未来ビ ジョン)に岡山大学の取り組みが反映されたことを受け、今年度は、関係部局、教員 とも連携を図りつつ、更なる成果の見える化を目指す。 ②矢掛町、井原市、瀬戸内市など、新型コロナ災禍の影響(学生や地域へのリスクコ ントロール)を踏まえつつ、地域社会との連携による学生たちのSDGsを念頭に置 いた地域活動への参画を継続するなかで研究活動を継続する。 ③SDGs達成に向けた取組の中で、地域課題解決に向けて、西日本豪雨災害からの 復興をテーマに工学部との連携による地区防災計画の策定支援(シンクタンク機能) の実施を今年度も引き続き継続していく。 ④岡山市中心市街地、新見市、矢掛町など、岡山県各地の地域振興に関するアドバ イスを行う。	①自治体、経済界との連携による地域課題の解決に向けた活動展開については、おかや ま地域発展協議体ならびにおかやま円卓会議の学内、学外の連携について全面的な活動 の見直しを実施した。こうした活動を踏まえて、今年度は、関係部局、教員とも連携を図り つつ、更なる成果の見える化を目指した。 ②矢掛町、井原市、瀬戸内市など、新型コロナ災禍の影響(学生や地域へのリスクコ ントロール)を踏まえつつ、地域社会との連携による学生たちのSDGsを念頭に置 いた地域活動への参画を継続するなかで研究活動を継続できた。 ③SDGs達成に向けた取組の中で、地域課題解決に向けて、西日本豪雨災害からの 復興をテーマに、岡山大学を代表して倉敷市真備地区復興計画推進委員会の公職を全うして 任務を終了した。さらに高梁市では、工学部との連携による地区防災計画の策定支援(シ ンクタンク機能)を実施した。 ④岡山市中心市街地、新見市、矢掛町など、岡山県各地の地域振興に関するアドバ イスを実施している。10月1日より、新たに床尾あかね特任准教授が着任したことにより、さら に自治体や経済界への支援体制を強化できた。	
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
該当事項なし		
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①地域総合研究センターの効率的な運営を行い、センター業務の円滑な推進を図 る。 ②地域総合研究センター教員会議等を通じ、全学ビジョン等の共有を図り、センター 業務を遂行する。 ③センター職員の評価方法の効率的かつ効果的な仕組みを構築する。		①地域総合研究センターの効率的な運営を行い、センター業務の円滑な推進を図った。 ②地域総合研究センター教員会議等を通じ、全学ビジョン等の共有を図り、センター業務を 遂行した。 ③センター職員の評価方法の効率的かつ効果的な仕組みを検討した(プラン作りを実施し た)。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。

(**該当がある場合のみ) 昨年度の指摘事項に対する取組状況

改善を要する点	
対応状況	